

男女共同参画とやま 市民フェスティバル

2011

平成23年10月16日(日) 11:00~16:00
富山県総合福祉会館
サンシップとやま 福祉ホール

入場無料

いっしょにつくりたい。明日という時代。
もっと自分を大切に、ずっと互いを大切に。
そのとき、たくさん笑顔の花束になる。

第I部 11:00~12:30

●講演会

「男と女のあり方が変わる 経済も変わる」

【講師】森永卓郎さん(獨協大学教授・経済アナリスト)

【定員】260人(当日受付順) ※申込不要



森永卓郎さん

第II部 13:30~16:00

●オープニング

開会式
男女共同参画社会づくり作文コンクール表彰式

●シンポジウム

デートDVを考えてみよう

◎講演会「暴力という名の支配はなぜ起こるのか」

【講師】石川結貴さん(作家)

◎パネルディスカッション

「もしかしてデートDV? ハッピーな明日のために」

【コーディネーター】石川結貴さん

【パネリスト】五十嵐恵美子さん(芝園中学校養護教諭)

竹澤みどりさん(富山大学保健管理センター講師)

豊富安子さん(グループ女網~ストップDVとやま~相談員)

【定員】260人(当日受付順) ※申込不要



石川結貴さん



《主催》富山市
《お問合せ》富山市民生活部男女参画・ボランティア課
Tel.076-443-2051 Fax.076-443-2176 danjyo-volun@city.toyama.lg.jp

編集後記

ファミリー・サポート・センターの取材では、地域での新たな「つながり」もすてきなものだと思います。また、協力する側にとっての社会参画の側面もあると感じました。困った時には、利用をためらう前に、一歩踏み出してみてもいいのでは?(春日編集委員)

ピカピカの社会人1年生だった頃、男女参画という言葉や女性らしい、自分らしい生き方をあまり意識していませんでした。そして社会人15年生の今...あいのかぜを通じて、じっくり、しっかりこれからのライフスタイルを皆さんと一緒に考えてみたいと思います。(野上編集委員)

今までになげなく読んでいた「あいのかぜ」。編集委員になって、多くの人達の知恵の結晶だと気づかせていただきました。2年間の任期の間、「男女共同参画」について勉強させていただきます。

(村下編集委員)

編集に際し、多くの方々にご協力いただきました。ありがとうございました。

本誌「あいのかぜ」について

「あいのかぜ」は、男女共同参画社会の実現に向けて、市民一人一人が男女共同参画社会に関する正しい理解と認識を深めることを目的に、公募市民3人からなる編集委員によって企画・編集された情報交流誌です。

●編集・発行●

富山市民生活部
男女参画・ボランティア課

〒930-8510 富山市新桜町7-38
Tel.076-443-2051 Fax.076-443-2176
E-mail danjyo-volun@city.toyama.lg.jp



環境にやさしい「水なし印刷」を採用しています。

ai no kaze あいのかぜ 32

2011年<秋号>



ファミリー・サポート・センターをご存じですか?

女性のシゴトぶり、カラダぶり、ココロぶり

今を精一杯生きる富山ウーマンへのメッセージ

男女共同参画 とやま市民フェスティバル2011

ファミリー・サポート・センターをご存じですか？

みなさんは「ファミリー・サポート・センター」をご存じですか？
ファミリー・サポート・センターでは子育てを手伝ってほしい方(依頼会員)と子育てのお手伝いができる方(協力会員)とが会員になって地域で助け合う活動を行っています。
今回は、富山市ファミリー・サポート・センター協力会員としていきいきと活動する中島千恵子さんにお話を伺いました。



ファミリー・サポート・センター協力会員になって、どれくらい？

7年ほど前に、友人に誘われたのがきっかけで、協力会員になりました。友人は、私が子供好きと知っていて、誘ってくれたのです。7年間で、20人近い子供たちと関わってきました。

現在は、どんなサポートをしていますか？

今は、もうすぐ2歳になる女の子を自宅で預かったり、小学4年生の女の子を学校から学童保育施設に、車で送迎したりするサポートをしています。

2歳になる子は、お母さんの仕事の都合で、日中の数時間と、週に一度は、夜も1時間半ほど預かります。私がお子さんを預かる上で、一番気をつけているのは、「ケガをさせないこと」。1年ほどサポートしていますが、ヨチヨチ歩きの際は、とにかくケガをさせないように、必死でした。この子は、まだ、「なかしまさん」と言えないので、私のことは、「なかさん」、主人のことは、「おじちゃん」と呼んでくれています。また、小学4年生の女の子は、小学1年生の時からずっと、送迎のサポートをしています。

サポート活動をしていて良かったと思うことは？

お母さん方から、「ありがとう」とか、「安心して預けられる」と言われると、やっぱり嬉しいですね。やっていて良かったと思います。子供たちも、お礼の手紙をくれたり、年賀状やクリスマスカードを送ってくれたりします。

また、子供たちの成長を見られるという楽しみもあります。2歳になる子は、初めは、お母さんと離れる時に泣いていましたが、今では慣れて、私と一緒に「行ってらっしゃい。」と見送るようになりました。成長がいちじるしい時期で、見ていて、とても楽しいです。

小学4年生の女の子とは、送迎の車の中で、いろいろな話をします。学校のことや好きな男の子のことも話してくれるし、運動会のリレーの選手に選ばれた時には、私も応援に行きました。自分の娘と同じ年齢のお母さんもいるので、まるで自分の孫のように思っていて、接しています。



ご自分の子育ての時と違いを感じることは？

今のお父さんとお母さんは、子供を二人で育てているという感じがします。その子にかけているというか、子供を大事にしているなどと思います。

私は、女の子一人、男の子二人の、三人の子を育ててきました。現在、子供たちは、県外で就職していますが、子供が小さい頃は、主人が単身赴任だったこともあって、何かあった時には、隣・近所に頼むことが多かったですね。当時は、こういう制度もなかったので、隣・近所で助け合ってきたという感じでした。ですから、このファミリー・サポート・センターは、困っている方に、ぜひおすすめしたいです。

ファミリー・サポート・センターでも、依頼会員の自宅に近いところで、サポートしてくれる協力会員を探してくれるので、預ける側も何かと都合が良いのではないかと思います。



富山市ファミリー・サポート・センターの仕組み



- 依頼会員は子どもを預けたいときにファミリー・サポート・センターへ電話で連絡します。
- センターは依頼会員の最寄りの地区にいる協力会員に連絡をとります。
- サポート活動を行い、報酬の受け渡し等を行います。

■利用料金

基本時間(平日7~19時)	<1時間> 700円
基本時間外(土日祝、休)	<1時間> 900円
軽い病気のとき	<1時間> 900円

point 両者が納得した上での利用

依頼会員の親子と協力会員が事前に直接会って打ち合わせを行うので、納得した上で利用を決めることができます。また、協力会員はサポート活動の報告書を提出することになっているので、預かってもらっている間の子どもの様子を知ることができます。

point 様々なニーズに対応

残業の予定があるので預けたい…。たまに夫婦の時間をもちたい…。二人目を妊娠中で、医者に行く間、子どもを預けたい…。美容院に行く時間預かってほしい…。このようなときに利用する会員の方もいらっしゃいます。



◎登録条件・利用料金など、詳細はお問い合わせください。

富山市ファミリー・サポート・センター 〒930-0085 富山市丸の内一丁目4-50(富山市立図書館1階) Tel.076-432-7212

子育て中の方たちにアドバイスを

私は、和顔・愛語・賛嘆(わがん・あいご・さんたん)一笑顔で迎えて、笑顔で送るということ、そして、褒める教育を心がけています。とにかく、「良い言葉」を使うと良いのではないのでしょうか？また、成長にともなって、「信じて離す」ということも大事になってくると思います。

これからの活動について

サポートを通して、お子さんのお母さんやお父さん、いろいろな方と知り合えました。知らない世界を知ることも出来て、自分の世界が広がったという思いもあります。私は、今、61歳です。これからは、一年、一年、自分に何が出来るかを考えて、頑張っていきたいです。



核家族化が進む中で、昔は三世代だった「家族」の形も変わりつつあります。親だけで、子育てをするには、時に限界を感じることもあるかもしれません。また、今後、晩婚化が進めば、高齢の祖父母の手を頼りに出来ないという事情も考えられます。

そんな時に、地域の助けを借りてみてはいかがでしょうか？

地域の中で、信頼できるサポーターを見つけて、新たな「つながり」を作っていくのも、一つの方法ではないでしょうか？



富山市ファミリーサポート・センター
協力会員

中島 千恵子さん

現在、ご主人と90歳になるお母様と3人暮らし。「サポートする方とは、家族ぐるみのお付き合いです。」と笑顔でインタビューに答えてくださいました。中島さんは、近くの小学校で、茶道クラブの講師も引き受けていらっしゃいます。

女性のシゴトぶり、 カラダぶり、ココロぶり

今を精一杯生きる富山ウーマンへのメッセージ

男女雇用機会均等法が誕生して約25年。

その間、女性は社会へ進出し、同時に個々の価値観、家庭や職場での在り方に選択肢が増えました。

人間としての多彩な生き方を追求する女性が輝きを放ち、男性と共に力強く社会を支えています。

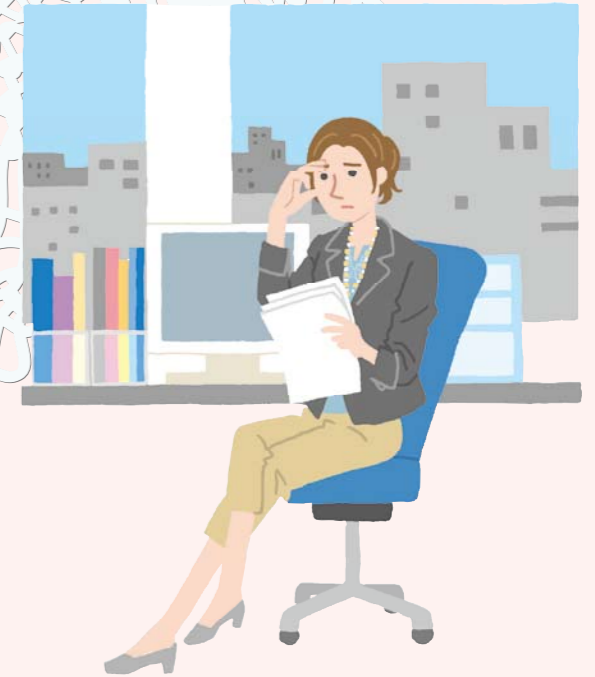
と同時に、ヒーリング、カウンセリングなどを利用する女性が増加しています。

また男女を問わず、心とからだのメンテナンスに対する意識も高まってきました。

現代女性が向き合う現実とは？

今、どんな気づきを求められているのでしょうか？

女性医療の視点から、女性クリニックWe!TOYAMA院長の種部恭子先生に聞いてみました。



女性のみなさん、 あなたの心とからだを知ってください

●種部先生が妊娠・出産にかかわる産科を含まない婦人科だけの女性クリニックを開設されたのは、なぜですか？

産婦人科は女性なら誰もが必要とする診療科のはずですが、日本では「妊娠した人が行くところ」というイメージが強く、それ以外の人にとっては婦人科の敷居が高いと思われるがちです。産科と婦人科が一緒になっている医院の待合室では、幸せいっぱい妊婦さんに混じり、子宮や卵巣の病気や不妊治療で苦しんでいる女性が並んで待っていますが、この環境自体が苦痛だと感じる女性も多いと思います。たとえば、思春期の女性の場合、性感染症や望まない妊娠等のトラブルを抱えることも多いのですが、産婦人科の敷居が高いことから受診が遅れてしまいがちです。また、更年期以降の女性の場合、「月経が終われば婦人科は必要ない」「若い妊婦さんの中に混じって婦人科に行きたくない」と遠慮がち。女性は、生涯「女性」ですから、妊娠出産だけでなく、それぞれのライフステージで男性とは異なる健康問題を抱えます。女性の健康を支えるプロである産婦人科医は、生涯を通じた女性の健康を向上させるためのアドバイザーであるべきと考えています。

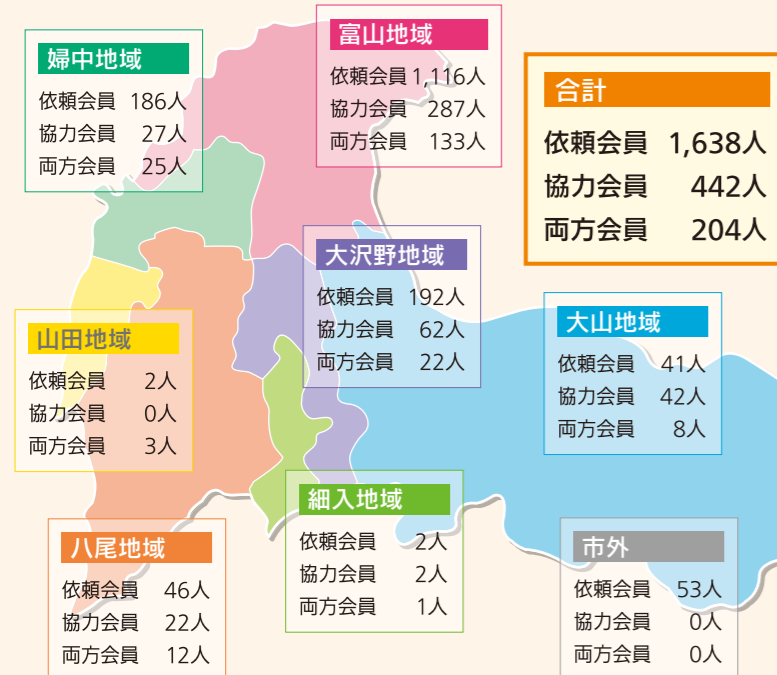
病気の診断・治療を中心とした従来の医療のあり方では女性の健康支援はできません。女性の健康問題について正しい知識を伝え、どのように健康管理をしたら良いのか、生き方を含めて共に考え支援する医療を行いたいと思っています。



女性クリニックWe!TOYAMA
種部 恭子 院長

平成22年度 ファミリーサポート・センター活動状況、会員数

■地域別会員数(H23.3月末現在)



■活動回数(H22.4月～H23.3月)

保育所・幼稚園の登園前の預かり	118件
保育所・幼稚園の送り	369件
保育所・幼稚園の迎え	539件
保育所・幼稚園の帰宅後の預かり	355件
学童の放課後の預かり	360件
放課後児童クラブの迎え	420件
放課後児童クラブ終了後の預かり	700件
子供の病気時の援助	151件
子供の習い事等の場合の援助	600件
保育所・学校等休み時の援助	528件
保育所等施設入所前の援助	26件
保護者の短時間・臨時的就労の場合の援助	255件
保護者等の求職活動中の援助	5件
冠婚葬祭の外出・他の子供の学校行事の援助	94件
保護者等の外出の場合の援助	183件
保護者等の病気・その他急用の場合の援助	28件
その他(学童の送迎・育児の手伝い等)	1,469件

女性クリニックに寄せられる相談の中から

●何歳まで子供が産めますか？ 高齢出産のリスクはどんなものですか？

不妊治療に携わる者の立場で言うなら、37歳を過ぎると妊娠率は格段に低下するので、遅くとも37歳までには妊娠を考えてほしいです。また、35歳以上の出産は、合併症により帝王切開になる率が高く、40歳以上になると流産や障害のある子供が生まれる確率が高くなります。

仕事を持ち目標に向かってひたむきに努力を続けているうちに、立ち止まって考える機会を逃し、気が付いたら人生のプランが抜け落ちていた、なんていうことがないように、いつ産むのか？何人産むのか？何歳までにどんな仕事をしてどこまで到達したいのか？も含めて、ライフプランを早い時期からじっくり考えてほしいと思います。

●若年更年期に悩んでいる人は、からだに何か問題があるのでしょうか？

ズバリ！「若年更年期」という言葉はメディアが生み出した造語です。動悸・不安感、睡眠障害、ほてり、めまい…閉経前後に女性ホルモンの急激な低下によって起こる「更年期障害」の症状と同じですが、閉経には程遠い年齢の月経がほぼ順調にきている女性でこれらの不調を訴える場合、パニック障害や抑うつ状態の症状そのものであることが殆どです。プチ更年期では？とクリニックを訪れる若い女性たちの話をたどっていくと、そこには「幼少時の虐待、夫のDV、上司のセクハラ、職場でのパワハラ、理不尽な慣習」など、家庭や社会での摩擦が背景にあることが見えてきます。男女共同参画社会を目指しているとはいえ、女性自身が「女たるもの〇〇であらねばならない、〇〇するのは悪い母親、妻・嫁たるもの…」と、すりこまれた観念に束縛されていることも多いと思います。自分のからだの声を聞いて、心を解放してあげること。そのために勇気を出して人の力を借りることも必要です。クリニックでは、「若年更年期ですか」といって訪れた女性に、「更年期ではありませんよ、お帰り下さい」とは言わず、カウンセリングを提案し解決策を探っています。



ライフスタイルと女性の健康

●結婚、出産、そして仕事は、女性の健康に どんな影響を及ぼすのでしょうか？

女性の健康は、結婚するかしないかで違いはありません。しかし、出産・授乳の回数が多いほど、子宮体がん・卵巣がん・乳がんのリスクが減少することがわかっています。ただし、これらの病気は食生活の変化とも関連しますので、高脂肪食を摂るようになった現代女性においては、出産回数が多いからと言ってリスクが大きく減るというものではありません。

女性の健康問題には、社会的要因が大きく影響を及ぼしています。仕事を持ち活躍する女性が増えたとはいえ、社会構造において女性はまだまだ弱者です。特にDV＝ドメスティック・バイオレンスに悩む患者さんの多くは、ご自身がDV被害を受

けている事に気づかず、不眠や倦怠感、イライラ、動悸などの不定愁訴を訴えて来院されます。パワハラやセクハラを受けている女性も同じです。これらの症状は社会との摩擦で起こっていることでありながら、頑張り屋の女性たちは、自分で解決しようと一人で抱えてしまいますよね。

また、女性の社会進出と平行して増加したのが女性の過重労働です。共働きでなくては生活出来ない現実、働きながら子どもを持ちたくても両立の不安から二の足を踏んでしまう現実、子育てがひと段落し社会復帰を図ろうとしても働ける場が限られていたり、仕事と生活の両立を支えてくれる環境が整備されていなかったり…。子どもを持つ・持たないにかかわらず、働きたい環境・条件で最大限能力が発揮できる社会づくりには、もう少し時間がかかるようです。

健康な生活のために

●健康のために、女性クリニックを どのように利用したらいいですか？

男性と女性は、そもそもからだの構造が全く異なり、発症する病気の種類や症状の出方、ストレスへの反応性や薬物の影響なども違います。科学的根拠をもって性差を考慮した医療(性差医療)や、現代女性のライフサイクルに配慮した総合的な医療(女性医療)を提供しようという動きが出はじめており、産婦人科医療の中でも、女性のヘルスケアは一つの重要な分野として位置づけられてきています。

産婦人科は女性の健康に関する情報を提供する場でもあります。年代やライフスタイルに応じて必要なからだの知識を持ち、そして健康で生き生きと社会で活躍するために、健康管理のアドバイザーとして役立てていただければと思います。



■インタビューを終えて

時代の移り変わりとともにライフスタイルが変化する中、私たちは、いつの時代も自分らしい生き方を模索し、幸せのかたちを見出してきました。皆さんの夢や希望が、今の社会に反映されてきたのだと思います。

そして今、社会の中のこれまで誰も気付かなかったところに、女性ならではの視点が入ってきていると感じます。これからも、今ある課題を現代の視点で考え、クリアにしていきたいものです。そのために、支えあうことを怖がらず、自分自身の心を狭めてジャッジせず、性差を超えて人間らしさを常に意識した生き方を見つけていきたいと思います。

インタビューの最後に、「女性の皆さんは、からだの声をしっかり聞いて、心を解放し、社会の中で活躍していくといいですね。」とおっしゃった言葉が、印象的でした。

